

# 實相寺花園会報 第203号

令和8年1月1日発行 発行所 臨濟宗妙心寺派 實相寺・實相寺花園会  
〒761-0450 高松市三谷町1811番地1 TEL087-889-3838 編集発行人 山本 文匡 <https://www.jissouji.net>

先月23日の天皇誕生日に久しぶりに国立まんのう公園に行きました。まんのう公園には「ドッグラン」も併設されている為、年に数回は犬を連れて出掛けるのですが、この日は風もおだやかな好天で、連休の最終日でもあったことから多くの家族連れが訪れていました。小高い丘に登って長閑な景色を眺めていると、「あたりまえの有り難さ」をしみじみと感じました。天気の良い日に家族でのんびりと過ごすことが出来るのは、けしてあたりまえのことではないのです。



2月28日アメリカとイスラエルがイランを攻撃しました。イランは最高指導者ハメネイ師をはじめ、政府の要人や軍幹部ら数人を失ったそうですが、簡単に体制が転覆するような国ではないそうです。今後の展開は誰にも予想が出来ません。

2月26日に令和7年の出生者数が速報値で70万5千人と発表されました。令和4年には統計を取り始めて以来、初めて80万人を割ったことで話題になったのですが、あれから僅か3年で10万人も減ったこととなります。こちらでもまた出口の見えない少子化が続いています。とはいえ現在の社会状況を見てみると、若い人が未来に希望を持っていないのも無理はないとも思えます。

去る2月18日～20日、本山妙心寺で第150次定期宗議会が開かれました。議会中、ある議員から「後継者不足の中、大きな寺院の住職資格が厳しすぎるのではないか？」との通告質問が出されました。聞いて思ったのは「それって一体、誰の為？」です。

例えばろくに料理も作れないうちに調理師免許を取得したからといって、店を継がせる板前さんはいないでしょう。老舗になればなるほど、一人前になるまで育ててやるのが親切です。無理に子供を跡継ぎにしても、将来困るのは本人であり檀家さんでしょう。

少子化対策も同様です。誰の為なのか？が問われている気がします。

「小水（しょうすい）の魚（うお）に  
楽しみ有り」③

「衆生本来仏なり」

『白隠禅師坐禅和讃』の冒頭の言葉ですが、大乘仏教、特に禅宗では生きとし生けるものは誰もが「仏性」を持っていると説きます。「仏性」とは仏に成れる性質などとも説かれますが、禅的にいえば「いのち」です。つまり

「衆生本来仏なり」とは「みんなのちを持っている」ということです。

「何だ、あたり前じゃないか」と思われるかもしれませんが、ここでいう

「いのち」とは、受精から心肺停止までの医学的生命とは少し異なります。

円覚寺の朝比奈宗源老師はその著書『仏心』の中で「人は仏心の中に生まれ、仏心の中に生き、仏心の中に息をひきとる」と仰っていますが「仏心」と「仏性」とは同じものです。

さらに「仏心は生を超え死を越えた無死無終のもの、仏心は天地をつつみ山も川も草も木も、全ての人も自分と一体であること、しかも、それが自己の上にぴちぴちと生きてはたらいて、見たり聞いたり、言ったり動いたりしているのだという、祖師方の言葉が、そのとおりであるということを知ったのであります。」とも仰っていますので、「仏心・仏性」とは個人的生命を超越した、大いなる宇宙的生命である

ことが判ります。

では私達はどこから生まれてきたのでしょうか？勿論直接的には両親から誕生した訳ですが、例えば、酸素がない宇宙空間ではマッチを擦っても火が点かないように、両親の出会いという縁があっても、この世界に「仏性」＝「いのち」という因が存在しなければ私達は生まれていません。

つまり私達は元々大いなるいのち、「仏性」の一部だったという訳です。「仏性」の中からお縁を頂いて誕生したのが私達ですから、私達が「仏性」を持っているのも当然です。チーズの中には乳成分が含まれているのです。

この「仏性」、すなわち「いのち」そのものには性別もなければ、年齢もありません。また「仏性」には「属性」も「個性」もありませんから全ての「いのち」は平等です。これが仏教的な生命観であり「山川草木悉有仏性（さんせんそうもくしつうぶっしょう）」と説かれてきました。

ちなみに現代の人権思想は、人間は神が創られたものだから地位や性別・人種に関わらず皆平等という考え方から生まれましたが、一方で家畜は神が人間の為に創られたものだから屠殺利用するのは当然と考えます。ここに仏教的生命観との違いが見られます。